

<b>科目名</b>	教科教育法家庭Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	角間 陽子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい]                  学校、高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、家庭科教育の変遷をふまえ、今日の学校教育における家庭科の意義と現状を理解する。また、学習指導要領及び同解説書、教科書及び実際の授業例をもとに、小・中・高等学校について体系的に家庭科教育を学び、学習指導要領、教科書の目標、内容、指導方法について学習し、年間指導計画、学習指導案の作成法を学ぶ。生活が直面する諸問題を解決する力を養うための家庭科教育の重要性と役割を考える。</p> <p>[授業全体の内容の概要]                  家庭科の教育目標、学習内容や家庭科教育の変遷をふまえ、小・中・高等学校ごとに学習指導要領を把握したうえで、その連続性について理解を深める。また、指導案の作成を通して家庭科教育について考える。</p>		
<b>達成目標</b>	①中学校家庭科の教育目標および内容を総合的な視点で捉え、理解することができたか ②中学校家庭科学習指導要領から、家庭科教育の意義を理解することができたか ③家庭科の学習指導案（中学校）を作成し、作成した指導案の授業構成（流れ）についてプレゼンテーションができたか。 ④より良い授業づくりのために、積極的に取り組めたか		
<b>受講資格</b>	家庭科教員免許状取得を目指す学生。本科目の単位修得が、「教科教育法家庭Ⅱ」の履修条件となる。	<b>成績評価 方法</b>	①平常点（授業への取り組み）20点 ②課題や提出物（レポート、ノートなど）40点 ③学習指導案の作成とプレゼンテーション40点 ①から③の総合評価とし、60点以上により合格となる。
<b>教科書</b>	中学校学習指導要領解説・家庭編（文部科学省）東京書籍発行 高等学校学習指導要領解説家庭編（文部科学省）開隆堂出版発行 その他、授業時に配布するプリント		
<b>参考書</b>	中学校教科書「技術・家庭 家庭分野」 高等学校教科書「家庭総合」		
<b>学生への要望</b>	家庭科教育法Ⅰは、「教科教育法家庭Ⅱ、Ⅲ」への土台となり、教育実習に繋がる重要な科目であることから、受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。		
<b>オフィスタイム</b>	授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	家庭科教育授業の目的、授業計画などについて説明する。また、家庭科教員の動向について理解を深め、教員を目指すことの意味を考える。	0
2	家庭科教育を考える1-求められる人間像とは-	自分が受けてきた小・中・高の家庭科の授業を振り返る。何故、家庭科の教員を目指すのか。目指す目的と動機を明確にし、今求められている人間像を考えていく。	0
3	家庭科教育を考える2-学校教育に求められる視点とは-	教育現場における家庭科教育の実態と問題点について、新学習指導要領解説を用いながら説明し論点の整理を行う。	0
4	家庭科教育を考える3-学習指導要領とは-	教科書と学習指導要領解説について学ぶ。	0
5	家庭科学習内容1-家庭科の学習内容（小学校）-	小学校家庭科の教科書を用いて、小学5・6年生がどのようなことを学ぶのかを知り、教科書にでてくる基礎・基本の技能を教える側からの視点で学び直す。	0
6	家庭科学習内容2-1-家庭科の学習内容（中学校）-	中学校家庭科の教科書を用いて、3年間で学ぶ内容をしっかりと把握するとともに、教科書にでてくる基礎・基本の技能を教える側からの視点で学び直す。	0
7	家庭科学習内容2-2-家庭科の学習内容（中学校）-	前回の続きを行う。	0
8	家庭科学習内容3-家庭科の学習内容（高等学校）-	高等学校家庭科のうち「家庭基礎」の教科書を取り上げ、どのような内容を学ぶのか解説する。	0
9	小・中・高の教科書分析を総括する	家庭科の各領域の特徴を理解し、領域相互の関連性を学び、小・中の学習内容と高等学校の学習段階のなかで理解と体系化を行う。	0
10	学習指導案（中学校）	家庭科の授業計画の立て方、家庭科の学習指導案の書き方について学習を型を提示しながら学ぶ。	0
11	学習指導案①-中学校の作成	前回までの学習をもとに各自が任意の単元を選択し、指導案の作成を行う。	0
12	学習指導案②-授業の構成とプレゼンテーション-	各自が作成した指導案をもとにプレゼンテーションを行う。	0
13	学習指導案③-授業の構成とプレゼンテーション	（前回に引き続き）各自が作成した指導案をもとにプレゼンテーションを行う。	0
14	中学校家庭科の内容の振り返り	よりよい授業をめざした指導案の作成をするときの留意点の再確認を行う。また、教員採用試験の分析を通して、中学校家庭科の内容を振り返る。	0
15	中学校家庭科の内容の総括	本授業を通してどのような力がついたかを自己評価することを通して、中学校家庭科の学習内容の理解を深める。	0

<b>科目名</b>	教科教育法家庭Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	浜島 京子		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科の教育目標、学習内容を小・中・高等学校ごとに把握したうえでその連続性について理解できる。</li> <li>2. 高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の単元指導計画、学習指導案を作成することができ、模擬授業をすることができる。</li> <li>3. 模擬授業を相互評価することで、授業の指導方法の工夫や改善点が見える。</li> </ol> <p>【授業の概要】中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校（家庭基礎または家庭総合）についての単元指導計画、学習指導案の作成を行う。模擬授業では、相互評価を行う。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①高等学校家庭科の教育目標および内容を理解できたか</li> <li>②高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか</li> <li>③体験や実験、実習を取り入れた模擬授業を実施できたか</li> <li>④より良い授業づくりのために、相互評価に積極的に取り組めたか</li> </ol>		
	<b>達成目標</b>	<p>【授業の到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科の教育目標、学習内容を小・中・高等学校ごとに把握したうえでその連続性について理解できる。</li> <li>2. 高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の単元指導計画、学習指導案を作成することができ、模擬授業をすることができる。</li> <li>3. 模擬授業を相互評価することで、授業の指導方法の工夫や改善点が見える。</li> </ol> <p>【授業の概要】中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校（家庭基礎または家庭総合）についての単元指導計画、学習指導案の作成を行う。模擬授業では、相互評価を行う。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①高等学校家庭科の教育目標および内容を理解できたか</li> <li>②高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか</li> <li>③体験や実験、実習を取り入れた模擬授業を実施できたか</li> <li>④より良い授業づくりのために、相互評価に積極的に取り組めたか</li> </ol>	
<b>受講資格</b>	家庭科教員を目指す人	<b>成績評価 方法</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業で配布するコミュニケーションシート</li> <li>②課題（作品、レポート、小論文など）</li> <li>③単元指導計画、学習指導案、模擬授業の実践</li> <li>④15回の授業内に行うテスト</li> </ol> <p>①②合わせて30点、③40点、④30点</p>
<b>教科書</b>	小・中・高の学習指導要領解説 家庭編（文部科学省） 小・中・高の家庭科の教科書（出版されている各社のもの）		
<b>参考書</b>	特に指定しない。		
<b>学生への要望</b>	授業で提示された課題に積極的に取り組みましょう。		
<b>オフィスタイム</b>	授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	私のキャリアプラン ～理想の家庭科教員像～	授業の目的、授業計画、評価の方法などについて説明する。はじめに他者紹介カードを作成し、スピーチを行う。アンケートを通して高等学校の家庭科教育を振り返り、目指したい家庭科教員像を明確にし、今後のキャリアプランの見通しを再確認する。 授業の後半では、第2回の授業で取り上げる外国の家庭科	0
2	外国の家庭科教育	日本の家庭科に相当する教科として、海外ではどのような教育がされているのかを知る。外国の教科書と日本の教科書の比較を行い、相違点について一覧表にまとめる。	0
3	家庭科教育の現状と課題	新学習指導要領を読み、高等学校における家庭科教育の現状と課題を捉える。そして今後の家庭科教育の方向性について討論する。	0
4	家庭科で育てたい「生きる力」とは	「生きる力」の定義を学び、各科目で育てたい生きる力について解説する。そのうえで、各自が考える生きる力について小論文を作成し発表する。	0
5	家庭科の学習内容と評価	実技教科である家庭科の評価基準の作成法と評価方法を学び、一覧表を作成する。	0
6	家庭科の指導方法	教科書の各領域に登場する指導方法を知り、授業に取り入れる際の留意点について学ぶ。それぞれの指導法について、一覧表にまとめる。	0
7	「体験」を取り入れた家庭科の授業プラン① ～食分野～	家庭科で重視されている「体験」を取り入れた授業について紹介する。また、「体験」を取り入れる際の留意点について学ぶ。 食分野の授業プランとして、「ビタミンCの簡易実	0
8	「体験」を取り入れた家庭科の授業プラン② ～環境分野～	家庭科で重視されている「体験」を取り入れた授業について紹介する。また、「体験」を取り入れる際の留意点について学ぶ。 環境分野の授業プランとして、「食料自給率と食品廃	0
9	「体験」を取り入れた家庭科の授業プラン③ ～消費生活分野～	家庭科で重視されている「体験」を取り入れた授業について紹介する。また、「体験」を取り入れる際の留意点について学ぶ。 消費生活分野の授業プランとして、「商品選択」につ	0
10	模擬授業の計画	各自、単元指導計画と「体験」を取り入れた模擬授業の学習指導案の作成を行う。	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	単元指導計画の発表	各自がパワーポイントを用いて単元指導計画を作成し、発表をする。評価基準表に基づいて、それぞれの発表の評価を行う。	0
12	模擬授業と相互評価①	各自、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業の評価に基づいて相互評価を行う。	0
13	模擬授業と相互評価②	各自、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業の評価に基づいて相互評価を行う。	0
14	模擬授業と相互評価③	各自、作成した指導案をもとに模擬授業を行う。模擬授業の評価に基づいて相互評価を行う。	0
15	高等学校家庭科の内容の総括	本授業を通してどのような力がついたかを知識定着テストや自己評価シートに記入することを通して確認する。	0

<b>科目名</b>	教科教育法家庭Ⅲ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	浜島 京子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①授業で活用するための教材・教具の準備・製作ができる。</p> <p>②①で製作した教具を活用して高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の模擬授業をすることができる。</p> <p>③ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解する。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）についての年間指導計画、学習指導案の作成を行うとともに、効果的な教材・教具を製作する。製作した教具を活用した模擬授業を行を行い相互評価を行う。また、新学習指導要領に取り上げられている「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」について実践例をもとに学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①学習指導案の板書計画をたてることができたか</p> <p>②模擬授業に活用できる教具を製作することができたか</p> <p>③ホームプロジェクトや学校家庭クラブについて理解できたか</p> <p>④ホームプロジェクトのプレゼンテーションに積極的に取り組んだか</p>		
<b>達成目標</b>	<p>【授業の到達目標】</p> <p>①授業で活用するための教材・教具の準備・製作ができる。</p> <p>②①で製作した教具を活用して高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）の模擬授業をすることができる。</p> <p>③ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動について理解する。</p> <p>【授業の概要】</p> <p>中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、高等学校の家庭科（家庭基礎または家庭総合）についての年間指導計画、学習指導案の作成を行うとともに、効果的な教材・教具を製作する。製作した教具を活用した模擬授業を行を行い相互評価を行う。また、新学習指導要領に取り上げられている「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動」について実践例をもとに学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>①学習指導案の板書計画をたてることができたか</p> <p>②模擬授業に活用できる教具を製作することができたか</p> <p>③ホームプロジェクトや学校家庭クラブについて理解できたか</p> <p>④ホームプロジェクトのプレゼンテーションに積極的に取り組んだか</p>		
<b>受講資格</b>	家庭科教育法Ⅰ・Ⅱを受講していることが望ましい。	<b>成績評価 方法</b>	①家庭科教育についての小論文 ②課題・学習指導案・製作した教具 ③模擬授業 ④ホームプロジェクトのプレゼンテーション ①20点、②20点、③30点、④30点
<b>教科書</b>	<p>テキスト</p> <p>小・中・高の学習指導要領 家庭編（文部科学省）</p> <p>小・中・高の学習指導要領解説 家庭編（文部科学省）</p> <p>小・中・高等学校家庭科の教科書（出版されている各社のもの）</p>		
<b>参考書</b>	特に指定しない。		
<b>学生への要望</b>	<p>受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。次年度の教育実習に向けて、模擬授業を通して、実践力を高めていく。より良い授業になるように、板書計画、教具作りにしっかり取り組むこと。</p> <p>事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと。教育問題の動向を知るために、新聞等をよく読んでおくこと。（60分）</p> <p>事後学習：授業を踏まえて、ノートのまとめを行うとともに課題に取り組むこと。（60分）</p>		
<b>オフィスタイム</b>	授業開始前、授業終了後		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション 高等学校家庭科の学習内容	<p>○授業の目的および授業計画（シラバス）について説明する。</p> <p>○家庭科教育についてのアンケートを実施する。</p> <p>○教科教育法家庭Ⅱのふりかえりを行い、「わかる授業」を目指して今後どのようなことに取り組んだらよいか意見を出し合う。</p> <p>○授業で使用する「教具」について実例を示しながら説明する。</p>	0
2	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動のちがいは	<p>○高等学校家庭科（家庭基礎と家庭総合）の学習内容</p> <p>○全国高等学校家庭クラブ連盟の沿革と概要について説明する。</p> <p>○全国高等学校家庭クラブ連盟主催の全国ホームプロジェクトコンクールの入賞論文や作品を紹介する。</p> <p>○教職課程の学生が、ホームプロジェクトを実際に体験して、生徒に研究発表の仕方を指導する際の方法について理解を深める。</p> <p>ホームプロジェクトのテーマ：東日本大震災と家庭科教育</p> <p>「衣」、「食」、「住」、「家族」、「家庭」、「環</p>	0

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
3	高等学校家庭科の単元指導計画および学習指導案の作成	○任意の単元または題材についての学習指導計画を作成する。 ○学習指導案については、【板書計画】【プリント作成】に重きを置いて作成する。	0
4	「わかる授業」を目指してー板書計画ー	○各自が作成した板書計画をプレゼンテーションし、自己評価および相互評価を行う。	0
5	「わかる授業」を目指してーワークシートの作成ー	○各自が作成したワークシートを実際に使用しながら、問題や課題を見つけ、生徒にわかりやすいプリントになるように改善する。	0
6	模擬授業 「衣生活」領域ー自己評価および相互評価その1ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。	0
7	模擬授業 「家族・家庭生活」領域ー自己評価および相互評価 その2ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。	0
8	模擬授業 「発達と保育」領域ー自己評価および相互評価 その3ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。	0
9	模擬授業 「高齢者福祉・共生社会」領域ー自己評価および相互評価 その4ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。	0
10	模擬授業 「住生活」領域ー自己評価および相互評価その5ー	○模擬授業を実施する。授業評価チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行う。	0
11	家庭科と消費生活 その1：地域と連携した消費者教育の展開	○多様化する消費者トラブルの実情を知るために、消費生活センターの見学を行う。 ○自治体発行の啓発資料を授業で活用する方法を検討する。	0
12	家庭科と消費生活 その2：キャリア教育と関連させた授業の展開	○キャリア教育と関連させた消費者教育の授業内容について知る。 ○給与明細表の見方、金融取引の金利計算等の具体的事例をととして、自己管理の方法や人生設計について	0
13	家庭科と環境	○持続可能な社会のしくみについて学ぶ。 ○ESDと家庭科の関連について学ぶ。 ○地球規模で環境問題を捉え、家庭科の授業をととして、何を教材にどのように教えたらよいかを議論す	0
14	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の指導方法	○教職課程の学生自身が、実際にホームプロジェクトを体験し、生徒に指導する際の方法について、理解を深める。 ホームプロジェクトのテーマ：東日本大震災と家庭科	0
15	ホームプロジェクト研究発表会	○各自が、パワーポイントを活用し、プレゼンテーションを行う。 ○チェックリストに従い、自己評価と相互評価を行	0

<b>科目名</b>	教科教育法家庭Ⅳ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	難波 めぐみ			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>【授業の到達目標】                  中学校・高等学校家庭科教諭免許を取得するために、「教科教育法家庭Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学修した小・中・高等学校の教育目標や、学習内容について体系的に学んだことをもとに、単元指導計画、学習指導案の作成を行う。模擬授業を構成し、また、模擬授業の体験を通して、生活が直面する諸問題を解決する力を養うための家庭科教育の重要性と役割を考える。また、教壇実習にも耐えうる対応力を身につける。</p> <p>【授業の概要】                  中・高等学校の家庭科教諭免許を取得するために、小・中・高等学校の教育目標、学習内容について体系的に学んだことをもとに、中学または高等学校の家庭科単元指導計画、学習指導案（細案）の作成を行う。模擬授業では、相互評価など重要な評価方法を学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価項目】                  ①中・高等学校家庭科の教育目標および内容を理解できたか                  ②中・高等学校家庭科の単元指導計画、学習指導案の作成はできたか                  ③体験や実験、実習を取り入れた模擬授業を実施できたか</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【達成目標】                  ①家庭科指導計画および学修指導案（細案）の作成ができたか                  ②指導計画及び指導案をもとにより良い模擬授業となるよう心掛けて実践することができたか                  ③事前事後学習に積極的に取り組むことができたか</p>			
<b>受講資格</b>	家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを受講していることが望ましい。	<b>成績評価 方法</b>	①授業への取り組み 20点 ②提出物（レポート、小論文など）40点 ③課題（単元指導計画、学習指導案、模擬授業の実践）40点 ①～③の総合評価、60点以上で合格となる。	
<b>教科書</b>	小・中・高の学習指導要領 家庭編（文部科学省） 小・中・高の学習指導要領解説 家庭編（文部科学省） 小・中・高等学校家庭科の教科書（出版されている各社のもの）			
<b>参考書</b>	『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 技術・家庭】』、『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【高等学校】』			
<b>学生への要望</b>	家庭科教員としての資質を高めるために、授業で出される課題や模擬授業に主体的に取り組むこと。			
<b>オフィスタイム</b>	火（Ⅰ・Ⅱコマ）、水（Ⅳコマ） 家政学館4F被服学研究室。不在の場合もありますので、授業終了後確認して下さい。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	90
1	ガイダンス—家庭科教員像—	授業の目的、授業計画、評価の方法などについて説明する。「教科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」で学んだ内容を確認しながら、家庭科教員としての存在を考えていく。	シラバスを確認し授業内容を把握する
2	学習指導計画と学習指導案（細案）の作成	評価基準の作成、評価方法を学び、各自、指導計画および学習指導案（細案）を作成する。	指導計画について事前に調べ、授業終了後は学修指導案を作成する
3	学習指導計画と授業例	家庭科の授業例と指導計画および授業の構成について	授業構成について考え、授業構成を考える
4	模擬授業と相互評価	教材研究および指導計画案の発表	発表準備
5	模擬授業と相互評価	教材研究および指導計画案の発表	発表準備
6	模擬授業と相互評価	教材研究および指導計画案の発表	発表準備
7	模擬授業と相互評価	教材研究および指導計画案の発表	発表準備
8	模擬授業と相互評価	教材研究および指導計画案の発表	発表準備
9	模擬授業と相互評価	教材研究および指導計画案の発表	発表準備
10	体験授業から家庭科教育を考える①	教育実習での実習内容を復習し、指導案の再作成に取り組む。模擬授業及び相互評価を実施する。	実習内容の振り返り、指導案の作成
11	体験授業から家庭科教育を考える②	教育実習での実習内容を復習し、指導案の再作成に取り組む。模擬授業及び相互評価を実施する。	実習内容の振り返り、指導案の作成
12	体験授業から家庭科教育を考える③	教育実習での実習内容を復習し、指導案の再作成に取り組む。模擬授業及び相互評価を実施する。	実習内容の振り返り、指導案の作成
13	「家庭科教員としての資質」を考える	家庭科の授業の重要性を再認識し、家庭科を学ぶ意義と目的について再確認する。	実習内容の振り返り、指導案の作成
14	「家庭科教員としての資質」を考える	家庭科を教える意義と他教科との横断的な学習事例を検証し、より良い教材作りに活かせるようにまとめに取り組む。	教材作りの重要性を事前学修しまとめる
15	中・高等学校家庭科の内容の総括～	本授業を通してどのような力がついたか振り返り、家庭科教員として備えておくべき知識の定着を図る。	全体を通して振り返り替えしノートをまとめる

<b>科目名</b>	教科教育法福祉Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	熊田 伸子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>教科「福祉」が創設された時代背景や経過、学習指導要領の改正や高校福祉科の各科目の概要理解、教育方法、ICT及び教材の適切な活用方法について演習形式で学ぶ。また、現場で対象となる人々との人間関係の構築が可能となるよう、基礎的専門知識と技量の習得を目指して、福祉科教員に求められる資質について考える。</p> <p>大泉が高等学校家庭科教諭の経験を活かし、指導計画の作成や教育実習について指導する 実務経験：私立高等学校家庭科教諭として勤務</p>		
<b>達成目標</b>	<p>高等学校福祉科教育に従事する者として、社会福祉の知識や制度などについて基礎から学習し、それらを用いた講義をICT及び教材を適切に活用して展開できるようにする。学校現場経験をもとに、その経験を活かして、家族・家庭や高齢者に関する問題、いじめや不登校等への対応を指導するとともに、教材の効果的な活用についても指導する。 実務経験：私立高等学校教員として勤務。</p> <p>【履修カルテ評価項目】 ①福祉教育の目的、意義について理解できたか。 ②福祉教育の歴史、理論について理解できたか。 ③福祉の授業の指導法や展開について考えることができたか。</p>		
<b>受講資格</b>	福祉コース教職履修者	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、課題・レポート30%
<b>教科書</b>	指定なし。プリントを配布する。		
<b>参考書</b>	『福祉教科教育法』ミネルヴァ書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 福祉編」海文堂出版		
<b>学生への要望</b>	福祉に関する内容は幅広いので、社会の状況についても関心を持ち、新聞や文献を読んでください。		
<b>オフィスタイム</b>	<p>熊田 月曜日・金曜日のⅠ時限目 創学館No.6 研究室 大泉 水曜日Ⅰ・Ⅱ時限目 創学館No.3 研究室</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	福祉教育の意義	教科「福祉」に関する意義や理念、概念などについて学習する。	シラバスを読み、福祉教育とは何かを調べておくこと。講義資料の復習をする。
2	学習指導要領と教科「福祉」	学習指導要領の内容及び改訂の趣旨と意義について理解を深める。	学習指導要領「第1章総説」を読んでおくこと。講義資料の復習をする。
3	福祉科の教育課程①	教科「福祉」の目標と科目構成について学ぶ。	学習指導要領6～7ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
4	福祉科の教育課程②	教科「福祉」の各科目の目標、内容と取り扱いについて理解する。	学習指導要領9～28ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
5	福祉科の教育課程③	教科「福祉」の各科目の目標、内容と取り扱いについて理解する。	学習指導要領29～44ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
6	教育課程の編成と指導計画の作成①	教育課程編成の一般方針、各教科・科目の単位数、履修等について学ぶ。	学習指導要領45～54ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
7	教育課程の編成と指導計画の作成②	各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱いについて学ぶ。	学習指導要領55～58ページを読んでおくこと。
8	福祉科教育の実際①	教科「福祉」実施校の実態について理解を深める。福祉科における実習の課題と意義について考える。	福祉の授業を取り入れている高校を調べておく。講義資料の復習をする。
9	福祉科教育の実際③	高齢者問題や児童、家族問題についての教育法について学ぶ。	福祉に関するニュースを調べておくこと。講義資料の復習をする。
10	福祉科教育の実際④	生存権や生活保護法問題、バリアフリー等について理解を深める。	福祉に関するニュースを調べておくこと。講義資料の復習をする。
11	福祉教育の歴史	戦前から現代における日本の福祉や福祉教育について学び理解を深める。	日本の福祉教育の歴史について調べておくこと。講義資料の復習をする。
12	福祉科の教育実習①	福祉科の教育実習についてその実施内容や展開、ICT及び教材の活用、評価について学習する。	講義資料を読み、教育実習の意義について考えをまとめておくこと。講義資料の復習をする。
13	福祉科の教育実習②	疑似体験の意義と課題について考える。	疑似体験の意義と課題について考えておくこと。講義資料の復習をする。
14	福祉科教諭の資質	福祉科教諭としての資質について多角的に捉えて考察する。	福祉を専門とする教諭に求められる資質について考えておくこと。講義内容の復習をする。
15	まとめ	これまでの講義内容のまとめをする。	講義内容を整理しておくこと。

<b>科目名</b>	教科教育法福祉Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	熊田 伸子, 大泉 由美			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>教科「福祉」が創設された時代背景や経過、学習指導要領の改正や高校福祉科の各科目の概要理解、教育方法、ICT及び教材の適切な活用方法について演習形式で学ぶ。また、現場で対象となる人々との人間関係の構築が可能となるよう、基礎的専門知識と技量の習得を目指して、福祉科教員に求められる資質について考える。</p> <p>大泉が高等学校家庭科教諭の経験を活かし、指導計画の作成や教育実習について指導する 実務経験：私立高等学校家庭科教諭として勤務</p>			
<b>達成目標</b>	<p>高等学校福祉科教育に従事する者として、社会福祉の知識や制度などについて基礎から学習し、それらを用いた講義をICT及び教材を適切に活用して展開できるようにする。学校現場経験をもとに、その経験を活かして、家族・家庭や高齢者に関する問題、いじめや不登校等への対応を指導するとともに、教材の効果的な活用についても指導する。 実務経験：私立高等学校教員として勤務。</p> <p>【履修カルテ評価項目】</p> <p>①福祉教育の目的、意義について理解できたか。 ②福祉教育の歴史、理論について理解できたか。 ③福祉の授業の指導法や展開について考えることができたか。</p>			
<b>受講資格</b>	福祉コース教職履修者	<b>成績評価 方法</b>	定期試験70%、課題・レポート30%	
<b>教科書</b>	指定なし。プリントを配布する。			
<b>参考書</b>	『福祉教科教育法』ミネルヴァ書房 文部科学省「高等学校学習指導要領解説 福祉編」海文堂出版			
<b>学生への要望</b>	福祉に関する内容は幅広いので、社会の状況についても関心を持ち、新聞や文献を読んでください。			
<b>オフィスタイム</b>	熊田 月曜日・金曜日のI時限目 創学館No.6 研究室 大泉 水曜日I・II時限目 創学館No.3 研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	福祉教育の意義	教科「福祉」に関する意義や理念、概念などについて学習する。	シラバスを読み、福祉教育とは何かを調べておくこと。講義資料の復習をする。
2	学習指導要領と教科「福祉」	学習指導要領の内容及び改訂の趣旨と意義について理解を深める。	学習指導要領「第1章総説」を読んでおくこと。講義資料の復習をする。
3	福祉科の教育課程①	教科「福祉」の目標と科目構成について学ぶ。	学習指導要領6～7ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
4	福祉科の教育課程②	教科「福祉」の各科目の目標、内容と取り扱いについて理解する。	学習指導要領9～28ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
5	福祉科の教育課程③	教科「福祉」の各科目の目標、内容と取り扱いについて理解する。	学習指導要領29～44ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
6	教育課程の編成と指導計画の作成①	教育課程編成の一般方針、各教科・科目の単位数、履修等について学ぶ。	学習指導要領45～54ページを読んでおくこと。講義資料の復習をする。
7	教育課程の編成と指導計画の作成②	各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱いについて学ぶ。	学習指導要領55～58ページを読んでおくこと。
8	福祉科教育の実際①	教科「福祉」実施校の実態について理解を深める。福祉科における実習の課題と意義について考える。	福祉の授業を取り入れている高校を調べておく。講義資料の復習をする。
9	福祉科教育の実際③	高齢者問題や児童、家族問題についての教育法について学ぶ。	福祉に関するニュースを調べておくこと。講義資料の復習をする。
10	福祉科教育の実際④	生存権や生活保護法問題、バリアフリー等について理解を深める。	福祉に関するニュースを調べておくこと。講義資料の復習をする。
11	福祉教育の歴史	戦前から現代における日本の福祉や福祉教育について学び理解を深める。	日本の福祉教育の歴史について調べておくこと。講義資料の復習をする。
12	福祉科の教育実習①	福祉科の教育実習についてその実施内容や展開、ICT及び教材の活用、評価について学習する。	講義資料を読み、教育実習の意義について考えをまとめておくこと。講義資料の復習をする。
13	福祉科の教育実習②	疑似体験の意義と課題について考える。	疑似体験の意義と課題について考えておくこと。講義資料の復習をする。
14	福祉科教諭の資質	福祉科教諭としての資質について多角的に捉えて考察する。	福祉を専門とする教諭に求められる資質について考えておくこと。講義内容の復習をする。
15	まとめ	これまでの講義内容のまとめをする。	講義内容を整理しておくこと。



<b>科目名</b>	教育原理 I	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	関川 悦雄, 山本 裕詞		
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	<p>本授業は教職課程必修科目のうちのもっとも基本となる科目であり、受講生たちが教育の原理や理念、教育の歴史や思想に関する基本的理解を深めて教育の全体と課題を把握することを目標とする。受講生は、これまでほぼ無意識に教育を受けてきた立場から転じて、今後は人間の発達や知育や德育の問題について教育思想や教育法制度、教育行政の理解をすることで、教育について客観的視点から学習するようになる。その場合、学校教育の在り方をとくに深く考察し、教職という職責の意義と責任について自覚を高めていく。こうして、教育に対する上記の視点の転換によって、教育の原理・本質を、歴史的考察と合わせて、国際比較の観点からも幅広く理解できるようになるであろう。</p> <p>さらに受講生は、教員として求められる実践的教養を身につけていくことが求められる。とりわけ、教育法規、教育課程、教育行政については具体的に正確に理解し、学校教育の骨格について理解を深めると同時に、教育や子どもを取り巻く時事問題へも精通するようになり、教職に対する前向きなスタンスをを培うようにする。</p> <p>&lt;履修カルテの評価項目：到達目標&gt;</p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長の意味を考察することができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関する問題意識を高めることができたか。</p> <p>④マスキミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>&lt;履修カルテの評価項目：到達目標&gt;</p> <p>①教育の目的とは何かについて考察をするが、その場合、教育基本法上の規定のみならず、歴史的練磨を経てきた教育の古典的思想や子ども観、発達観、学習観の理論に触れて、人間の成長についてアプローチができたか。</p> <p>②自己体験からだけでなく、社会的・行政的、制度的角度から教育について理解することができるようになったか。</p> <p>③学校・学級に関するさまざまな話題について、問題意識を高め、図書館にも出向き、自ら資料を通して分析することができるようになったか。</p> <p>④マスキミで話題になる学校教育や子どもの問題について、表面的ではなく、原理的に考察できるようになったか。</p>		
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 2年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択 1年 2単位 選択	<b>成績評価 方法</b>	①授業中に1～2回レポートを課し、次回の授業で発表・意見交換を行う。レポートの評価と発表・意見交換などで60点とする。 ②学期末のレポートまとめで40点。 この2つの総合点が100点とする。他方、欠席等が多い場合やレポート提出のない学生には、総合点から減点措置をとる。
<b>教科書</b>	<p>特に指定しない。</p> <p>しかし、毎回の授業時にその日の講義内容を詳述した特製レジュメを配布するので、授業内容を忘れるということは決してない。それらを順序良くファイルに綴じて毎回の授業に持参し、復習にも用いること。試験前にはそれら配布資料をしっかりと再読すること。</p> <p>尚、関川担当分の授業では、関川・北野『教育思想のルーツを求めて』（啓明出版、2009年）を使用する。</p>		
<b>参考書</b>	<p>①第8回からの授業は、教育制度の観点から教育原理の理解を深めることとなるため、最新の『教育小六法』を持参すること。その他一般参考書となる文献は、『教育法規』や『文部科学白書』、『子ども・若者白書』などの公的資料や分野別研究書、他に新聞記事など、多数あります。いずれにしても、授業中に教えます。</p>		
<b>学生への要望</b>	<p>講義形式を大切にしながら、同時に提出レポートを活用した発表や、教育的テーマをめぐる意見交換のアクティブな形式を導入することで、教育問題への主体的考察を習慣づける。したがって、受講生には、下調べ的な学習を求める。</p> <p>1 学問的要望</p> <p>教育の原理となっている教育思想や教育行政には、先ず歴史的系譜というものがあり、先ずはそれを理解することが必要である。各思想間には相違や見方の対立があるので、その対立構造や文脈を学ぶことで、主要な教育思想や特徴を把握していけば、歴史的に知られている教育思想を生き生きと理解することができる。</p> <p>授業中に出てくる思想家、哲学者、教育行政官、教育実践家（学校をつくって教育にあたった人物）については、常に次回授業までに、可能な限り教育学辞典や世界人名事典、インターネット等で調べて確認し、その部分のコピーを取っておき、知識を確実にしよう。</p> <p>2 守るべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業には清新な気持ちで臨み、新しい内容を発見し、自分を作り上げていってほしい。</li> <li>・参考書は授業中に教示するが、教科書は定めない。毎回配布される授業内容のレジュメや資料を必ずファイルにして綴じておき、それを大切に保存し、毎回の授業時にそのファイルを持参し、教科書として活用すること。</li> <li>・授業に対しては真摯な気持ちで臨み、授業開始時と終了時の礼儀（挨拶）を軽視しないこと。</li> <li>・レポートを出された場合は、既定の日（大抵は翌週の授業時）に必ず提出すること。定期試験前に慌てて過去のレポートを提出することは認められない。レポートは、A4の用紙に印字してくること。</li> <li>・授業開始時には、机の上に決して飲食物を出しておかないように重々心がけること。</li> </ul>		
<b>オフィスタイム</b>	<p>関川：水曜Ⅲ限（12:50）；木曜Ⅳ限（14:30～16:00） e.sekikawa@koriyama-kgc.ac.jp 山本：月曜Ⅰ限（10:30）；月曜Ⅲ限（12:50～14:20） y.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jp</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	導入：教職という仕事と教育について学ぶことの意味	受講生の皆さんと一緒に次のテーマについて考える。 1 家庭教育という人間形成の基盤 「私の受けた家庭教育の意義」 2 学校・社会から見た教育の意味 家庭教育、学校教育、社会教育 3 教育を考察する多面的・総合的領域 教育実践の位置	60
2	今日の学級とコメニウス	1今日の学級制は何のために編制されるか。2学級とは何か、その規模はどうか。3ペル・ランカスタ法一の考案者はだれか、その方式の長所・短所は何か。4学級制の考え方の考案者たるコメニウスはいかなる人物か。5コメニウスの著書や功績などは何か。	60
3	J. J. ルソーの〈子ども〉の発見と市民教育	1子どもの人権は何で保障されているか。2子どもの権利に関する条約は何か、またその成立の経緯はどうか。3子どもの人権保障の考え方はルソーにまで遡及できるか。4ルソーの著書・思想・教育論は何か。	60
4	J. H. ベスタロッチの直観教授の確立と博愛主義教育の普及	1誰にも共通する初等教育はいつ始まったか、その内容は何かであったか。2ベスタロッチの教育事業はどこで始まり、どういう経緯を辿っていったか。3ベスタロッチの直観教授はどのようなもので、基礎陶冶の理念は何か。4日本に入ってきたベスタロッチ主義は何か。	60
5	J. F. ヘルバルトの教授4段階とヘルバルト主義の教授5段階	1現在の学校教育の中に見る教科教授の過程や教材の取扱いはどうなっているか。2ヘルバルトの科学的教育学はどうやって確立したのか。3ヘルバルトは教育の目的とその方法を何に求めたのか。4ヘルバルトは教授4段階をどう規定しているか。5ヘルバルト主義という教授5段階はどうなっており、日本にはどういう経緯を経て入ってきたのか。	60
6	ホーレス・マンの公教育思想と公立学校制度	1現在の日本の教育委員会制度はどうなっているか。2アメリカ公立学校の父たるホーレス・マンはどのような人物であり、かれの教育思想は何か。3公教育の三大原則は何か。4公教育制度のもつ意味は何か。	60
7	J. デューイの児童中心主義教育と経験主義教育	1旧教育と新教育の違いは何か。2世界における新教育運動の流れはどうであったか。3デューイの経験重視の教育は何か。4デューイ後の新教育の展開はどうなっているか。	60
8	教育法規の体系	1. 日本国憲法 2. 教育基本法 3. 学校教育法・同施行規則 戦前・戦中の教育勅語体制との比較において、戦後の、いわゆる憲法・教育基本法体制の理解を深めます。また、その延長にみる平成18年教育基本法全部改正の意義を考察します。	60
9	日本の教育制度と行政	1. 学校教育制度 2. 社会教育・生涯学習制度 3. 教育行政システム 日本の教育制度と行政を総覧した上で、教育行政の一般行政からの相対的独立の意義を考えます。	60
10	学校制度の類型	1. 学校制度の類型—単線型と複線型— 2. 他国の教育制度 3. 私教育と公教育の違い 学習権保障の内実を考察の中心に据えながら、国家・社会的見地からの学校体系の設計について検討します。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
11	「学校」という空間	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校・教室の風景</li> <li>2. フリースクール</li> <li>3. 子供の放課後活動の変遷</li> </ol> 子どもの学びの形の多様化を、それが生じた背景を含めて理解することで、現状が抱える課題を可視化します。	予習・復習；レポート作成と整理 60
12	生涯学習社会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後の社会教育制度</li> <li>2. 生涯学習への移行</li> <li>3. 学校支援ボランティアなどのボランティアの現状</li> </ol> 生涯学習社会への移行を理解するために、コンドルセにみる理念的誕生と、その後の制度の推移を確認する。その上で、人間化へ向かう生涯学習と社会適応（資本適応）に向かう二つのベクトルがあることを理解し、我が国における「生涯学習社会」の実態を評価する。	予習・復習；レポート作成と整理 60
13	日本社会が抱える教育に関する病理（1）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「いじめ」研究による「いじめ」解釈</li> <li>2. 群生秩序と普遍秩序</li> <li>3. いじめ防止対策推進法</li> </ol> 「いじめ」研究による「いじめ」の構造について理解を深めた上で、いじめ防止対策推進法の内容を確認する。また、近年生じた「いじめによる自死」事件を分析し、当該ケースの問題点を考察する。	予習・復習；レポート作成と整理 60
14	日本社会が抱える教育に関する病理（2）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「教育病理」の理論と制度的対応の限界</li> </ol> 「教育病理」概念についての理解を深め、それに対する制度的対応を確認することを通して、公教育に内在する原理的課題について考察する。	予習・復習；レポート作成と整理 60
15	授業のまとめ	授業のまとめと確認を行う。	予習・復習；レポート作成と整理 60

<b>科目名</b>	教育原理Ⅱ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 この授業では、教育制度を様々な角度から取り上げ、教育をめぐる社会・文化について考察していく。日本や諸外国の教育制度を知ること、現在の私たちがとりまく教育について自ら考えることをねらいとし、教育法規の視点から教育制度を考えることができることを目標とする。そのため、新聞報道内容から教育問題を抽出し、順番で発表して各自の学びを共有する活動を取り入れる。また、教育に関する法規については、小テストで知識の定着を図り、教員採用試験に備える。授業は、講義形式で行うことを基本とするが、調査発表、小レポートの作成、授業内での活動・意見交換等のグループワークも設ける。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>①日本の教育制度について、どの程度理解することができたか。 ②現代の教育制度の変化について、どの程度理解することができたか。 ③教育経営的な要素について、どの程度理解することができたか。</p>		
<b>受講資格</b>	教職等に就くことを希望する者	<b>成績評価 方法</b>	まとめテスト（50%）、小レポート・小テスト（50%）
<b>教科書</b>	『教育小六法』学陽書房 2019年（すでに持っているものがあれば、他の出版社のものでも可）		
<b>参考書</b>	授業中に適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	受け身の姿勢ではなく、常に、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
<b>オフィスタイム</b>	<p>月曜Ⅱ限（10:30～12:00） 月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 場所：教職課程推進室（家政学館4階奥左） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。</p>		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 教育改革の影響を考える(グループ・ディスカッション)	120
2	教育制度の目的	1. 教育基本法第1条、第2条 2. 教育制度を構成する三原理	120
3	生涯にわたる学び	1. 教育基本法第3条、第12条 2. 社会教育と生涯学習	120
4	教育の機会均等	1. 教育基本法第4条、第5条 2. 義務教育 3. 高校授業料無償化 4. 高等教育	120
5	地方教育行政	1. 教育基本法第16条 2. 地方教育行政法 3. 教育委員会制度改革	120
6	教職員	1. 教育基本法第9条 2. 教育職員免許法 3. 教育公務員特例法 4. 教員の給与と待遇	120
7	就学前教育	1. 教育基本法第11条 2. こども・子育て支援 3. 少子化対策	120
8	後期中等教育・高等教育	1. 教育基本法第4条、第7条 2. 後期中等教育の整備と準義務化 3. 高等教育の質保証	120
9	教育政策の計画化	1. 教育基本法第17条 2. 教育振興基本計画 3. 教育と財政	0
10	学校の経営	1. 教育基本法第6条、第9条、第13条 2. 学校の経営 3. 学校管理規則 3. 開かれた学校と地域社会 4. チーム学校	120
11	学級の経営	1. 教育基本法第5条、第6条 2. 学級経営 3. 学級経営と特別活動 4. 問題行動と生徒指導	120
12	教育課程の経営	1. 教育基本法第6条、第13条 2. 教育課程経営（カリキュラム・マネジメント） 3. PDCAサイクル	120
13	教育とリスク	1. 教育とリスク（特別の教科道徳について、価値観の学びについて全体討議を行う）	120
14	学校教育と人権	1. 児童生徒の法的地位論 2. 教育行政指導にみる公教育役割のゆらぎ（他職種の専門性と校長の校務掌理権との望ましい関係について、全体で討議する）	120
15	授業のまとめ	1. 授業の総まとめ	120

<b>科目名</b>	教職論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	<p>〔授業の目的・ねらい〕 最初に、人間の成長に必要な「教育」について思考を深め、その上で、公的な教育機関である学校や公的資格である教員免許状の意義について考えていきます。その際、具体的な制度、仕組み、役割を確認しながら、本来の意義に立ち返って批判的に理解を深めます。後半では、近年社会問題化している教育問題について、それに対して期待されている教員の役割を確認し、それを「教育」や「学校」の本来の意義から批判的に検討します。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>1) 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 2) 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 3) 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 4) 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。</p>			
<b>受講資格</b>	教職等に就くことを希望する者	<b>成績評価 方法</b>	まとめ試験50%、授業末や課題として実施する小テスト・小レポート等の提出物等50%の割合で総合評価。	
<b>教科書</b>	最新版の教育小六法を留意すること（例えば、『教育小六法2019年版』学陽書房）など。なお、授業中にプリント等を配布することがあるので、ファイリングしてノートと連動して活用できるようにしておくこと。			
<b>参考書</b>	本図愛実・末富芳編『新・教育の制度と経営[新訂版]』学事出版 2017年 文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』2017年			
<b>学生への要望</b>	常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅱ限（10:30～12:00） 月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 場所：教職課程推進室（家政学館4階奥左） そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	○オリエンテーション ○二つの教育モデル	○授業計画および評価方法の案内 ○二つの教育モデルと教師の在り方を考える(グループ・ディスカッション)	まとめの小レポート 90
2	学校教育の機能1	○学校教育の目的 (1) 学校の種類 (2) 学校の設置者 (3) 教育行政と学校管理	復習 小テスト 90
3	学校教育の機能2	○教職員とその職務 (1) 教職員の職務とその内容 (2) 事務職員の職務 (3) その他	復習 小テスト 90
4	教員の資質と教員観	○教員に求められる資質能力 (1) 教職観と教員に求められる資質の関係 (2) 専門職としての教員 (三つの教職観についてのグループ・ディスカッション)	復習 小レポート 90
5	学校の組織と運営1	○校長および教頭、主任の職務と役割 (1) 校長 (2) 副校長、教頭 (3) 主任等	復習 小テスト 90
6	学校の組織と運営2	○学校の組織と運営 (1) 校務分掌による役割分担 (2) 新しい職による組織の変化	復習 小レポート 90
7	教諭の教育活動1	○学級担任の職務と教科指導等 (1) 学級担任の役割と学級経営 (2) 教科指導 (3) 養護教諭、栄養教諭の職務	復習 小テスト 90
8	教諭の教育活動2	○道徳の指導と「総合的な学習の時間」 (1) 道徳教育の実際 (2) 総合的な学習の時間	復習 小レポート 90
9	教諭の教育活動3	○生徒理解にもとづく指導 (1) 生徒指導の意義 (2) 進路指導の意義 (教育相談と生徒指導の関係について、全体討議)	復習 小レポート 90
10	教員の服務	○教員の一日と服務規程 (1) 勤務と休暇 (2) 服務規律	復習 小テスト 90

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容		
11	教員の研修	○教員の研修とその体系 (1) 教員研修の種類 (2) 教員研修の内容 (3) 免許更新制度	復習 小テスト	90
12	現代における学校教育の課題 1	○人権教育と学習権の保障 (1) 同和教育 (2) 特別支援教育の理念と「障がい」理解 (3) 貧困と教育機会	復習 小レポート	90
13	現代における学校教育の課題 2	○いじめと不登校 (1) いじめの現状と自己の認識 (2) いじめ重大事態における公教育責任 (3) 専門職間の連携・協働 (いじめの4層構造理論をもとに、いじめをなくす方策を全体討議)	復習 小レポート	90
14	現代における学校教育の課題 3	○学習指導要領の概要と課題 (1) 学習指導要領の歴史の変遷 (2) 新学習指導要領の目指すもの	復習 小レポート	90
15	授業のまとめ	○授業の総まとめ	復習 総まとめテストのチェック	120

<b>科目名</b>	教育心理		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	折笠 国康			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。			
<b>達成目標</b>	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 2年 家政学部 人間生活学科 福祉コース 2年 家政学部人間生活学科建築デザインコース2年 家政学部 食物栄養学科 2年	<b>成績評価 方法</b>	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やリアクションシート30%、試験70%で行う。	
<b>教科書</b>	特に指定はない。			
<b>参考書</b>	講義の中で、適宜紹介する。			
<b>学生への要望</b>	講義への協力的な参加を要望する。			
<b>オフィスタイム</b>	金曜日 2限 8 3 5 3限 8 3 5			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	オリエンテーション、教育心理学とは	この授業の目的と授業方針を理解する。心理学的な思考や考察が果たす役割を理解する。 認知心理学の基礎を学び、認知に対する認識について理解する。	60
2	自己に関わる心理学（1）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	60
3	自己に関わる心理学（2）	アイデンティティ、自己評価、自尊感情の概念を理解し、自己を心理学的に理解する。	60
4	自己に関わる心理学（3）	本当の自尊感情、本当の自分について心理学的に理解する。	60
5	記憶と思考（1）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	60
6	記憶と思考（2）	人間の記憶と思考のメカニズムについて理解する。	60
7	動機づけの心理学（1）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	60
8	動機づけの心理学（2）	人間の動機づけについての知見を概観し、動機づけを心理学的に理解する。 内発的動機づけに関する自己決定理論の概略を理解する。	60
9	学級の心理学（1）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。	60
10	学級の心理学（2）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。	60
11	学級の心理学（3）	理想の学級の姿や学級の機能、全国的な学級の様子や課題について理解する。 学級アセスメントについて理解する。 アクティブラーニングと学級集団の関係を理解する。	60
12	勇気と勇気づけの心理学	自主自立の姿の達成、人生を主体的に生きるために必要な勇気と勇気づけについて理解する。	60
13	アドラー心理学（1）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	60
14	アドラー心理学（2）	アドラー心理学を概観し、人間の行動に関しての目的について理解する。 また、人生を主体的に生きるための知見について理解する。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
15	本講義のまとめ	試験を実施し、本講義の内容を振り返り心理学的な知見のまとめを行う。	復習：授業内容をまとめ、必要に応じ参考文献にあたる 60



<b>科目名</b>	道徳教育の理論と方法		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	関川 悦雄			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	本授業では、道徳教育は道徳科という授業だけでなく、学校における全体の教育活動を通しても行われることになっており、「道徳教育は苦手だから教えない」というわけにはいきません。週1時間の「道徳の時間」は「特別の教科」として道徳科になり、教員を目指す皆さんは今まで以上に道徳教育について学ぶ必要があります。道徳教育を行うためには、まず自らが「道徳とは何か」を自問自答しながら、道徳教育の歴史や道徳性の発達に関する基礎知識を習得していることが求められます。さらに、道徳についての思索を深めつつ、学校全体にわたる道徳教育の目標・内容、道徳科の目標・内容・指導計画と実際の指導、そして道徳科の成立に伴う「新しい道徳授業」を模索して行きます。			
<b>達成目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳とは何か、自問自答できる。</li> <li>2 「道徳性」を構成する諸様相、小学校と中学校にわたるその道徳性の発達について系統的に理解できる。</li> <li>3 道徳教育と道徳科のそれぞれの目標・内容・指導計画を理解し、これらに沿って実際の指導ができる。</li> <li>4 新しい道徳授業をつねに模索し続けることができる。</li> </ol>			
<b>受講資格</b>	中学校・高校教諭の教員免許状の取得を目指す学生。	<b>成績評価 方法</b>	毎回ワークシートを使用し、毎回教科書を使いつつこのワークシートの内容空欄を埋め、どこかで1回は模擬授業ができることで、60%で合格とする。学期末のまとめ作成で40%を加算する。	
<b>教科書</b>	羽田積男・関川悦雄編著『道徳教育の理論と方法』（弘文堂）を使用する。			
<b>参考書</b>	特になし。			
<b>学生への要望</b>	講義への主体的、協力的な参加を要望する。専用のノートを準備すること。			
<b>オフィスタイム</b>	水曜Ⅲ限（12:50～14:20）同曜Ⅳ限（14:30～16:00）。随時、時間のあるときに相談に応じるので、下記のメール・アドレスで事前の予約をとること。ugg28553@m4.dion.ne.jp			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	60
1	講義ガイダンス	授業の進め方やワークシートの活用、成績評価の付け方、班別討議の仕方などを説明する。	予習・復習；レポートの作成と整理
2	道徳とは何か	道徳に関する事例を多角的に検討し、徳目主義の問題点と道徳教育の可能性を考える。	予習・復習；レポートの作成と整理
3	わが国の道徳教育の歴史（1）	戦前の道徳教育の歴史—修身科における道徳教育の推移や教育勅語体制の確立、戦時期の国民学校における修身科教育のありようを考察する。	予習・復習；レポートの作成と整理
4	わが国の道徳教育の歴史（2）	戦後の道徳教育の歴史—修身科の廃止、「道徳の時間」の特設、「特別の教科」としての道徳科の成立の流れを検討する。	予習・復習；レポートの作成と整理
5	道徳性の発達（1）	道徳性を構成する諸様相にはどんなものがあるか。	予習・復習；レポートの作成と整理
6	道徳性の発達（2）	小学校児童の道徳性の発達と中学校生徒の道徳性の発達について系統的にとらえる。	予習・復習；レポートの作成と整理
7	学校における道徳教育（1）	道徳教育の目標と内容をとらえて、その適切な指導を考える。	予習・復習；レポートの作成と整理
8	学校における道徳教育（2）	道徳教育の全体計画の事例を参照しながら、その作成する際の配慮すべき事項と全体計画の意義と内容について考える。	予習・復習；レポートの作成と整理
9	道徳科の目標と内容（1）	道徳科の授業と、それ以外の教育活動における道徳教育との関係について考える。	予習・復習；レポートの作成と整理
10	道徳科の目標と内容（2）	道徳科の目指すべき目標を検討する。	予習・復習；レポートの作成と整理
11	道徳科の目標と内容（3）	道徳科の内容項目と、その取扱いの工夫について考える。	予習・復習；レポートの作成と整理
12	道徳科の指導計画と実際の指導（1）	道徳科の指導計画の立案と、それに沿った道徳授業を展開してみる。	予習・復習；レポートの作成と整理
13	道徳科の指導計画と実際の指導（2）	道徳科の指導方法の模索と評価の意義について考える。	予習・復習；レポートの作成と整理
14	新しい道徳授業を求めて	「考え、議論する道徳の授業」を実践するには、どんな工夫が必要なのかを検討する。	予習・復習；レポートの作成と整理
15	授業のまとめ		予習・復習；レポートの作成と整理

平成31年度

<b>科目名</b>	教育方法論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山上 裕子		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	教育の方法は、学ぶ者、学ぶ内容によって動く生きものである。何をどう教えていくのか、学校全体の教育課程全体像をつかみつつ、日々の授業を創意工夫していく必要がある。特に現在は、自ら主体的に考えるアクティブな学びが求められている。本講義では、教育方法の基礎理論をもとに、教育課程の意義や編成、授業の構成要素や評価、また、授業の基礎的な技術や指導案の作成及び模擬授業を行う。そして、教育機器の効果的な使用方法について学ぶ。		
<b>達成目標</b>	①教育方法の基礎理論について理解できたか。 ②授業の構成要素や多様な学習評価について理解できたか。 ③授業の指導技術のポイントを理解し、指導案を作成できたか。 ④教育課程の意義とカリキュラムをマネジメントする必要性を理解できたか。 ⑤情報モラルの現状と課題について理解できたか。 ⑥ICT教育の特徴と教材作成方法について理解できたか。		
<b>受講資格</b>	教職課程履修者	<b>成績評価 方法</b>	授業参加度20%、レポート80%
<b>教科書</b>	・小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） ・高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）		
<b>参考書</b>	・佐藤学『教育の方法』左右社、2012年。 ・古藤泰弘『教育方法学の実践研究』教育出版、2013年。 ・その他、授業中に適宜資料を配布する。		
<b>学生への要望</b>	授業用ノートを準備し、疑問点などメモをとること。 遅刻、欠席をしないよう注意すること。		
<b>オフィスタイム</b>	山上裕子 木曜日：14：30～16：00 833研究室 金曜日：12：50～14：20 833研究室 山口 猛 月曜日 10：30～12：00 No.2生芸科研究室 火曜日 16：10～17：05 No.2生芸科研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	30
1	オリエンテーション（担当：山上裕子、山口猛）	授業内容について説明を受け、到達目標を確認する。これまで受けてきた授業を振り返り、現在求められている学びについて考える。	30
2	教育の方法の基礎（担当：山上裕子）	子どもから学びが始まる、という教育観に立つ先人たち（ルソーの消極的な教育、ベスタロッチの直観教育等）の提案した教育方法の考え方と、その実践について学ぶ。	60
3	問題解決学習（担当：山上裕子）	自らが問い、課題を設定し、それを解決していくデューイの問題解決学習の理論と実践を学ぶ。また、今日に見られる総合的な学習の時間や道徳教育で取り組まれている実践を例に理解を深める。	60
4	多様な授業の形態と授業の構成要素（担当：山上裕子）	一斉授業や個別指導、モニトリアル・システムやドルトンプランなどの多様な授業方法を学ぶ。授業を構成する要素を検討し、主体的な学びとなるための教材の工夫について考え、小レポートにまとめる。	30
5	教育課程の役割と意義（担当：山上裕子）	20世紀初頭、アメリカで生じたカリキュラム議論に立ち返ることで、教育課程の多様な考え方について学ぶ。また、日本で告示されている「学習指導要領」の性格や社会で果たしている役割を学ぶ。	60
6	学力観の変遷（担当：山上裕子）	「学習指導要領」の変遷をたどることを通して、日本の学力の考え方の変遷を理解する。また、今日求められている学力について考える。	60
7	教育課程の編成（担当：山上裕子）	教育課程の編成の基本を学び、具体的な教育計画をシュミレーションすることをおして、教育内容の選択や配列、指導計画の検討について考える。	1
8	学校組織の中の学び（担当：山上裕子）	日々の授業は、学校全体の教育課程の位置づけにおいてなされる重要性を知るとともに、教育課程をマネジメントするという考え方の大切さを学ぶ。	60

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	多様な学習の評価（担当：山上裕子）	授業形態に応じた多様な評価について、基礎理論に立ち返りつつ、何をどのように評価を行うのかを学ぶ。	他者を評価することとはどのようなことが要求されるか、自身の経験を踏まえまとめる。
10	指導案の作成（担当：山上裕子）	これまでの授業内容を踏まえ、指導案を作成するための具体的な注意点を学び、指導案を作成する。	模擬授業の内容を考える。
11	模擬授業（担当：山上裕子）	話し方、板書の仕方等に留意し、作成した指導案を試す。	模擬授業の準備をする。
12	模擬授業の検討（担当：山上裕子）	より深い学びとなる授業の指導案の書き方や、技術について、模擬授業を検討し合う。小レポートにまとめる。	模擬授業の反省をまとめる。
13	情報モラルの現状と課題（担当：山口猛）	情報機器（スマートフォン・タブレット等）が急速に普及する中、子どもたちの学びを脅かすさまざまな課題（情報機器の利用実態・事件/事故）を理解し、対策を学ぶ。	授業で紹介した「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～指導の手引き」を読む。
14	ICT教育の歴史と現状（担当：山口猛）	文部科学省・総務省によるICT教育推進の歴史を確認する。また、ICT教育環境の具体的な活用事例から、長所と短所の理解を深める。	授業で説明したICT教育の課題を踏まえて、解決策を考える。
15	ICT教育対応デジタル教材の作成（担当：山口猛）	ICT教育に対応するデジタル教材作成法を学ぶ。教材作成は専門的なソフトウェアではなく、一般的に普及しているオフィスソフト（Microsoft Office）の標準機能を用いる。	授業内で説明したPowerPoint機能を用いてデジタル教材を作成する。

<b>科目名</b>	生徒指導論		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	<p>生徒指導とは、学校教育において全教職員が関わる校務のひとつである。まず、学校教育の業務構造（領域と校務分掌）との関係で生徒指導とは何かを理解し、その後で、生徒指導の機能と意味を把握する。さらに、いじめや不登校、そして問題行動や非行が話題となってきた20世紀末から、生徒指導はその意味合いを、問題行動の予防と対策に重点化してきていること、そこで、どのような問題や課題が子どもたちを取り巻いており、どのような指導・対応が望まれるのかを学ぶ。</p> <p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、集団としての生徒指導以外に、個別相談に関してカウンセラー的能力をもっている必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導のためには、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員、ボランティアの方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>			
<b>達成目標</b>	<p>【履修カルテの評価目標】【自己評価目標】は以下の4点</p> <p>①教師の仕事は教科を教えるだけでなく、子どもたちの人格を磨き、社会性を身につけさせ、独立した自立的な人間として形成することであるので、そのための力量と人間性をもつ必要があることを自覚できたか。</p> <p>②生徒指導主事の役割を認識できたか。また各教師は、集団としての生徒指導以外に、個別相談に関してカウンセラー的能力をもっている必要があることが理解できたか。</p> <p>③生徒指導は、教師1人ではできないこと、学校内の教職員の協力体制があつてこそ可能であり、学級・学校経営の在り方にも関わっている。ゆえに、生徒指導のためには、校長、副校長といった管理職はいうまでもなく、学年主任や養護教諭やスクール・カウンセラー、スクール・ソーシャルワーカーとの連携が重要であることを理解できたか。</p> <p>④生徒指導は、非行予防・非行対策のみならず、子どもたちの健全育成のための教育プランと連動すること、その推進には、PTAを始め地域社会の人々や、教育委員会、警察の生活安全課少年係、民生委員、ボランティアの方々等との連携が必要となっており、地域の支援のもと学校全体で取り組む仕事となっていることが理解できたか。</p>			
<b>受講資格</b>	家政学部 人間生活学科 生活総合コース 3年 2単位 選択 家政学部 人間生活学科 福祉コース 3年 2単位 必修 家政学部 人間生活学科 建築デザインコース 3年 2単位 選択 家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択 1年 2単位		<b>成績評価 方法</b>	授業の総まとめテスト（50%）確認小テスト・レポート（50%）
<b>教科書</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省『生徒指導提要』</li> <li>・毎回の授業において、その日のテーマに即したレジュメや資料を配布するので、それらをしっかりファイルにして第2の教科書として所持していること。</li> </ul>			
<b>参考書</b>	<p>授業中にその都度紹介する。</p> <p>尚、『青少年白書』、『子ども年鑑』などは重要文献である。近年の刊行のものがよい。</p>			
<b>学生への要望</b>	<p>授業に際しては、</p> <p>①授業中に飲食をしない。机上に飲食物を出しておかない。</p> <p>②レポートは必ず指定の日までに提出する。</p> <p>③指名された場合には、積極的に前に出て発表等を行う。</p> <p>④他人の発表内容を傾聴し、質問等をして理解を深める。</p> <p>⑤毎回の授業で何かしら「なるほど」と理解を深め、楽しく授業を聴き、自分を高めていくこと。</p> <p>⑥授業で配布されるプリントを「レジュメ」という。すべてのレジュメを順序よく1冊のファイルに綴じて、教科書として使用すること。</p>			
<b>オフィスタイトム</b>	<p>月曜2限（10：30～12：00） 月曜3限（12：50～14：20） 家政学館4階教職課程推進室 その他、授業・会議のない日ならいつでも来室可能。原則、アポを以下のメールでとること。 y.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jp</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	導入 本授業の構成・計画について理解する 「生徒指導」の既存イメージを共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の目標と、15回分の授業内容構成について、理解する。</li> <li>・自分の学校体験の中にある「生徒指導」のイメージを確認し、発表を通して他者と共有する。</li> <li>・次回までの提出物として、レポート「思い出に残る先生」をまとめ提出する。</li> </ul>	レポート 復習 120
2	生徒指導の意味と位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回出したレポートについて数名に発表してもらい、「良い先生とは」の意味を皆で考え、意見交換する。その中で、良い教師が持つ指導力に焦点をあて、それを生徒指導と関連づけてみる。</li> <li>・「教員の主な仕事」（学習指導・特別活動・生徒指導・学校運営と担当校務分掌・研究と研修）を内容を含めて理解したうえで、</li> <li>・生徒指導の意味と定義を『生徒指導提要』（文科省）の説明から理解する。また、『学習指導要領』の記載内容からも生徒指導の仕事の意義を理解する。</li> </ul>	レポート 予習 120
3	生徒指導と教師の姿	生徒指導の観点から教師の在り方を考える。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 手本としての教師 教師の権力性を確認した後に、生徒指導の観点から教師に必要な姿勢を洞察する。</li> <li>2 教師の自己開示 上記1の具体的内容として、教師の自己開示の必要性和方法を考える。</li> </ol>	レポート 予習 120
4	生徒指導の組織体制	多角的な観点から、生徒指導の組織体制について、理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒指導の校内組織</li> <li>2. 生徒指導主事</li> <li>3. 生徒指導年間計画</li> <li>4. チームとしての学校（スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー）</li> <li>5. 初期対応力とアセスメントの力</li> </ol>	小テスト 予習 120
5	自立を促す生徒指導の手法	子どもに自立を促す生徒指導の手法を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コーチング</li> <li>2. 構成的グループ・エンカウンター</li> <li>3. ソーシャル・スキル</li> <li>4. アサーション</li> <li>5. 感情のコントロールとマネージメント</li> </ol>	小テスト 予習 120
6	少年非行問題	少年非行について、その問題性と対峙方法について <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少年非行の推移</li> <li>2. 現代的非行の特徴</li> <li>3. 非行の具体的様相</li> <li>4. 非行モデル</li> <li>5. 非行からの立ち直り</li> <li>6. 少年事件処理手続きの流れと教師の役割</li> </ol>	レポート 予習 120
7	いじめ問題と対策	いじめの現状理解と最新のいじめ理論から、具体的対策について理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いじめの現状</li> <li>2. いじめの理論</li> <li>3. いじめ防止対策推進法</li> <li>4. いじめを 방지、いじめに向き合う生徒指導体制</li> </ol>	レポート 予習 120
8	生徒指導と教育相談	生徒指導と教育相談の関係を整理し、指導の両輪としての性格を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談体制</li> <li>2. カウンセリング・マインド</li> <li>3. 校則と教育相談</li> </ol>	小テスト 予習 120



<b>科目名</b>	教育相談論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 2年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	堀 琴美		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>教育相談は、児童・生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力をはぐくみ、個性の伸長や人格の形成を支援する教育活動です。児童・生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的過程を適切にとらえ、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの理論や技術）を身につけていきます。授業は毎回、対話式双方向型で進めていきます。後半にはグループで調査したことをプレゼンテーションの形で発表してもらいます。さらに、グループディスカッションやロールプレイなど体験的に学ぶ方法と、理論を体系的に学ぶ方法を組み合わせさせていただきます。感じたことや気づいたことを大いに語り合い、積極的に発言して、理解を深めてください。</p>		
<b>達成目標</b>	<p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>教員として、カウンセリング・マインドを基礎とした教育・支援の理念を持ち、また児童生徒との信頼関係を築けるような関わり方がイメージできるようになる。</p> <p>【履修カルテの評価観点】</p> <p>①学校における教育相談の意義と理論を理解する。                  ②教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリング・マインド等）を理解する。                  ③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。</p>		
<b>受講資格</b>	「教職課程」受講者	<b>成績評価 方法</b>	期末試験または期末レポート（80%） 発言内容、発表内容、受講態度（20%）
<b>教科書</b>	「教師のための教育相談の基礎」久芳美恵子著 三省堂 2010年発行 1980円		
<b>参考書</b>	授業の中でテーマ別に提示する。		
<b>学生への要望</b>	教師をめざす学生、とは言い、どちらかという児童・生徒の気持ちのほうがよくわかる…そんな今だからこそ、（子どもとして自分が求めている）支援者としての教師像を追求してもらいたいと思います。		
<b>オフィスタイム</b>	火曜日Ⅲ限、水曜日Ⅱ限、臨床心理学研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業計画と目標、評価ポイント、授業ポリシーについてのガイダンス。「心に残るあの先生」を振り返るワークショップ。	この授業で学ぶことについて概要を把握し、興味をもった内容について調べたり、文献に当たったりする。	30
2	教師が行う学校教育相談	子どもを取り巻く諸問題を俯瞰し、生徒指導と教育相談の関係と違いや、援助機能としての教育相談を学ぶ。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
3	自己理解と他者理解Ⅰ	教師（相談を受ける側）が自分自身を知ることの重要性を理解し、エゴグラム等を使って自分の性格特性や対人特徴を自己分析する。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
4	自己理解と他者理解Ⅱ	人格は多面的であり、人は様々な自我状態を使い分けて生きている。同じ行動でも置かれた状況によって解釈が変わることもある。子どもの問題行動の陰に隠れたSOSや心理的危機について、あるいは、教師が子どもの置かれた状況の理解することの重要性を学ぶ。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
5	自己理解を他者理解Ⅲ	人はみな見方も感じ方も違う。それをわかっているつもりでも、つい、自分と同じ見方を他の人もしていると思ってしまうことがある。教師が思い込みや偏見の陥穽にはまらないための視点を学習する。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
6	カウンセリングの理論と技術（1）	「悩みを持つ」人は「孤独」。あなたは誰に悩みを打ち明けますか。本講では、安全な聞き手とは、こころを開くアプローチなどについて考える。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
7	カウンセリングの理論と技術（2）	傾聴は何か。共感とは何か。気持ちを受け止める技術、相手の立場に立って考えることなどをテーマに体験的に学び、ディスカッションを行う。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
8	カウンセリングの理論と技術（3）	ロジャーズの人間性カウンセリング理論を中心に、人間に対する基本的な信頼や、その人が本来もつ力を取り戻す（Empowerment）ための支援について学ぶ。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
9	相談のプロセスと行動変容	カウンセリングのプロセスの中で、相談者の心に何が起ころのかを理論的に理解する。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
10	子ども理解の基礎知識（1）	著名な研究者による発達理論（エリクソン、ピアジェ、ハビィガスト）、マズローの欲求階層説を学ぶ。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30
11	子ども理解の基礎知識（2）	発達障害（LD、ADHD、アスペルガー症候群など）をもつ子どもへの理解と支援の在り方について。	授業で取り上げたキーワードや重要な概念をよく覚え、わからない言葉は調べてノートする。	30

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
12	子ども理解の基礎知識 (3)	子どもを取り巻く今日の問題（いじめ、不登校、虐待、子どもの貧困など）の定義、統計、法制度、実態、報道記事、支援の在り方、教師として気を付けることなどについて学習し、議論する。	30
13	子ども理解の基礎知識 (4)	実際のケース（例えば児童虐待）が発生したとき、教師は誰に相談し、どのように動かなければならないのだろうか。ルポルタージュや授業用構成事例等を使って、組織的対応と関係機関連携の必要性和重要性を取り上げる。	30
14	教育相談の具体的進め方 (1)	守秘義務と組織内（関係機関連携の中での）情報共有、個人情報の扱い方、学内外の専門家との連携、組織としての取り組みなど。	30
15	教育相談の具体的進め方 (2)	子どものやる気を引き出し、保護者の心に響くようなアプローチの仕方、資料作成、支援計画の作成などについて学ぶ。	30



<b>科目名</b>	進路指導論	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 2年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 2年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	本授業では、キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について中央教育審議会答申などを通して学んでいく。また義務教育段階、中等教育段階における実際の進路指導・キャリア教育について都道府県教育委員会の資料を基に学ぶものである。そのほかに、自分自身のキャリアプランについて考え、人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力および基礎的なマナーを培う。		
<b>達成目標</b>	①キャリア教育・進路指導の基礎的な事項について理解できたか。 ②進路指導の歴史について理解し、中央教育審議会が示したキャリア教育の新たな方向性を把握することができたか。 ④各教育段階におけるキャリア教育推進のポイントとその実例を挙げることができたか。		
<b>受講資格</b>	教職等に就くことを希望する者	<b>成績評価 方法</b>	総まとめテスト (50%)、小テスト・レポート (50%)
<b>教科書</b>	文部科学省『生徒指導提要』		
<b>参考書</b>	中学校キャリア教育の手引き (文部科学省)、高等学校キャリア教育の手引き (文部科学省)、このほか授業中に適宜紹介する。		
<b>学生への要望</b>	受け身の姿勢ではなく、常に主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。		
<b>オフィスタイト</b>	月曜Ⅱ限 (10:30~12:00) 月曜Ⅲ限 (12:50~14:20) 場所：教職課程推進室 (家政学館4階奥左) そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション	1. 授業に関するガイダンス 2. 自身が受けてきたキャリア教育 (進路指導) を振り返り、発表を通して経験を共有する。 その上で、キャリア教育のあるべき姿について、個々の意見を表出する。	レポート 予習 120
2	キャリア教育の変遷 (1)	1. キャリア教育が求められている背景 2. キャリア教育推進の経緯とキャリア教育の定義 3. 教育法規からみるキャリア教育の位置付け 4. キャリア教育の実践をめぐる課題	レポート 予習 120
3	キャリア教育の変遷 (2)	1. 中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」	小テスト 予習 120
4	進学指導 (1)	1. 進路開拓に必要なキャリア教育を通じて育成すべき力 2. 進路指導とキャリア教育 3. 進学指導の指導計画と課題	レポート 予習 120
5	進路指導 (2)	1. 志望校の決定プロセス 2. 学習塾や予備校との付き合い方	小テスト 予習 120
6	就職指導	1. 就職指導に関係する法律等 2. 就職指導の年間日程 3. 外部組織との連携	レポート 予習 120
7	若者の雇用をめぐる問題	1. ニート・フリーター 2. 非正規雇用 3. ブラック・バイト 4. 格差社会 (雇用をめぐる問題を念頭においた、望ましい進路指導の在り方について議論を深める)	レポート 予習 120
8	授業の総まとめ	授業の総まとめと理解度の確認	復習 120

<b>科目名</b>	教育実習Ⅰ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 1単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 1単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞		
<b>開講期</b>	通年		
<b>授業概要</b>	教育実習の意義、内容、方法、手続き、実習中の態度や配慮事項について学び、実習にスムーズに入れるようにするとともに、学生の身分のままで生徒に対しては指導者となることの立場や責任の重さを理解する。 教育実習終了後は、実習体験のまとめを発表し、同時に他の実習生の発表を聞くことで、問題点の整理と解決を図りながら、教師としての望ましい姿を追求していく下地を涵養する。		
<b>達成目標</b>	①実習生としての責任の重さを自覚できたか。 ②実習前の事前準備をすることができたか。 ③実際の指導場面を想定した学習指導案が作成できたか。 ④実習体験をふり返り、他者に伝えることができたか。 ⑤自己と他者の反省から、目指すべき教師像が描けたか。		
<b>受講資格</b>	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	<b>成績評価 方法</b>	①事前指導で義務付けた提出物の内容 (30点) ②事後指導時に提出させるリフレクションシート (20点) ③実習反省の発表 (30点) ④最終レポート「教育実習を終えて - 私の課題 - 」 (1200字) (20点)
<b>教科書</b>	「教育実習マニュアルと記録」 (本学様式) をもとにすすめ、必要に応じて参考資料を配布する。		
<b>参考書</b>	早稲田大学「教育実習マニュアル」第5版 (東信堂)		
<b>学生への要望</b>	1. 学生個人では責任の負担能力に限界があることを強く意識し、「報告」「連絡」「相談」を徹底する。 2. 積極的・主体的に学ぶ姿勢と謙虚に指導を受容する姿勢との両立を図る心構えを形成して欲しい。 3. 教育実習の受入校 (生徒と教師) に対して感謝し、その気持ちの表現についても真剣に考えて欲しい。		
<b>オフィスタイム</b>	月曜Ⅱ限 (10:30~12:00) 月曜Ⅲ限 (12:50~14:20) 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	120
1	オリエンテーション、事前指導1	・教育実習をするための必要手続き ・「教育実習Ⅰ」の授業計画、評価方法、各自の実習予定と指導時間の調整 ・教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守	実習日誌への実習校情報等の必要事項の記載
2	事前指導2	・教育実習に臨むにあたっての不安と期待 (レポート) ・教育実習日誌の書き方 (先輩方の日誌を参考に、日誌の書き方のポイントを各自で抽出し、その後発表を通して気付きを共有する) ・評価と指導の一体化について	復習
3	事前指導3	・模擬授業 (家庭科) (教師役と生徒役のロールプレイングと気づきの共有) ・教科指導案 (細案) の個別指導 ・実践と批判を介した修正	学習指導案の修正と作成 模擬授業の準備
4	事前指導4	・模擬授業 (家庭科) (教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有) ・教科指導案 (細案) の個別指導 ・実践と批判を介した修正 ・特別活動の指導案作成の観点	学習指導案の修正と作成
5	事前指導5	・模擬授業 (特別活動：教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有) ・実践と批判を介した修正 ・学習指導案 (細案) の個別指導 ・特別活動指導案の個別指導	学習指導案の修正と作成

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
6	事前指導6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業（特別活動：教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有）</li> <li>・実践と批判を介した修正</li> <li>・学習指導案（細案）の個別指導</li> <li>・お礼状の書き方</li> <li>・実習日誌の受取について</li> </ul>	学習指導案の修正と作成 180
7	事後指導1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習体験の発表(実習者のプレゼンテーション)</li> <li>・他者評価と自己反省</li> <li>・リフレクションシートの作成</li> </ul>	発表準備 120
8	事後指導2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業(教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有)</li> <li>・残された課題の自覚</li> </ul>	学習指導案の作成と修正 模擬授業の準備 180
9	事後指導3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業(教師役と生徒役のロールプレイングを介した気づきの共有)</li> <li>・他者評価と自己反省</li> <li>・まとめ</li> </ul>	学習指導案の修正と作成 模擬授業の準備 180

<b>科目名</b>	教育実習Ⅱ		<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 4単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 4単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞			
<b>開講期</b>	前期			
<b>授業概要</b>	教育実習の目的である以下の4点を踏まえ、日頃の学びの成果および教育実習事前指導で得たことを基に、「教師としての資質」を高めるために現場実習を行うことを目指す。 1. 大学で学んだことを、教える立場に立って実践的に検証すること。 2. 教師のあり方や職務・使命などを、体験的に理解すること。 3. 学校の実情や生徒の実態を把握し、それらへの具体的対応や心構えを知ること。 4. 自己の教職適性や教職志望を確認すること。			
<b>達成目標</b>	①教材研究を入念に行い、計画した指導案を実践できたか。 ②実習生としての身分をわきまえながら体験することで、教員としての服務基準の遵守を理解できたか。 ③教育実習日誌への簡潔で的確な記述ができたか。 ④学校の実情や生徒の実態、課題を把握することができ、その対処について指導教諭から具体的な対応策を学ぶことができたか。 ⑤実習校の先生方や生徒とのふれあいをとおして教職への志望が一層高まったか。			
<b>受講資格</b>	今年度「教育実習Ⅱ」への参加を認められた者	<b>成績評価 方法</b>	実習校からの評価と実習記録および実習への取り組みの総合点（100点）とする。	
<b>教科書</b>	教育実習 一マニュアルと記録一			
<b>参考書</b>	事前指導の際に連絡する。			
<b>学生への要望</b>	教育実習生としての心構えを理解し、実践できるように事前準備をしっかりと行うこと。 受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で臨んで欲しい。			
<b>オフィスタイト</b>	月曜Ⅱ限（10:30～12:00） 月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 場所：教職課程推進室 そのほかの時間帯の希望を含め、事前にy.yamamoto@koriyama-kgc.ac.jpにご連絡ください。			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション (現場実習)	1. 教育実習の目的 2. 教育実習の心構え 3. 教育実習のための準備	実習校調査 実習日誌への事前必要事項記載の確認 120
2	オリエンテーション(現場 実習)	1. 実習日誌の書き方 2. 法令上の注意 3. 実習前打ち合わせ記録確認	実習校調査 実習日誌への事前必要事項記載の確認 120
3	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
4	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
5	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
6	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇 実習の準備 180
7	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇 実習の準備 180
8	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇 実習の準備 180
9	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
10	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
11	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
12	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
13	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
14	現場実習	実習校での現場実習	実習内容に関する日誌への記載 教壇実習の準備 180
15	教育実習成果報告会(現場 実習)	1. 教育実習での成果 2. 教育実習で発見した課題と解決	実習の総まとめ(実習日誌の仕上げ) 180

<b>科目名</b>	教職実践演習（中・高）	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択
<b>担当教員</b>	山本 裕詞		
<b>開講期</b>	後期		
<b>授業概要</b>	本演習では、以下の4項目を踏まえて授業を行う。教員として必要な資質や知識および技能の再確認を行うとともに、自己分析を通して不足している部分の補完を目指し、教員として備えるべき資質のさらなる向上を目指す。		
<b>達成目標</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項</li> <li>①教育現場の現状を再確認し、教師の使命と役割を理解できたか。</li> <li>②社会性や対人関係能力に関する事項</li> <li>③生徒および教職員との人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーション能力を培うことができたか。</li> <li>④児童生徒理解や学級経営等に関する事項</li> <li>⑤現在の学校における生徒指導上の課題を理解し、「生徒1人ひとりへ個別に対応できる能力」と「学級集団を育成する能力」を培う。とともに「特別支援教育の現状」や「発達障害児」への指導・援助について理解できたか。</li> <li>⑥教科の指導力に関する事項</li> <li>⑦中学校の音楽、美術、家庭科、高等学校の家庭科の教科指導を十分に遂行できる知識と技術を再確認するとともに、各自が幅広い視野で学びを深め、専門性を高めることができたか。</li> </ol>		
<b>受講資格</b>	教育実習Ⅰ・Ⅱを履修していること	<b>成績評価 方法</b>	担当教員それぞれが、各回のレポート等を10点満点で評価する。全員の評価を踏まえて、総合的に評価する。
<b>教科書</b>	教科書は使用しない。必要な資料を授業の際に、配布するので、各自ファイル等に綴じて管理すること。		
<b>参考書</b>	授業の際に、各担当教員より提示。		
<b>学生への要望</b>	受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に臨んで欲しい。		
<b>オフィスタイム</b>	山本：月曜Ⅱ、Ⅲ限、関川：火曜Ⅱ限、水曜Ⅳ限、難波：水曜Ⅳ限、金曜Ⅲ限、折笠：火曜Ⅱ限、水曜Ⅳ限、小林：火曜Ⅴ限、木曜Ⅴ限、富士盛：火曜Ⅴ限、水曜Ⅴ限、黒沼：月曜Ⅴ限、水曜Ⅳ・Ⅴ限、ホーナー：月曜Ⅴ限、火曜Ⅴ限、磯部：水曜Ⅰ・Ⅳ限、菊池：月曜Ⅲ限、火曜Ⅴ限、亀田：水曜Ⅳ限、木曜Ⅲ限		

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	90
1	オリエンテーション （「教職実践演習（栄養教諭）」と合同）	①教職課程における「教職実践演習」位置付けについて理解する。 ②本科目の目的、授業計画、評価方法について説明して、授業に対する心構えを作る。 ③模擬授業の実施方法と、授業分析の視点について理解する。 ④教職採用試験受験状況、その他教職アンケート調査 ⑤履修カルテに関する説明 担当：山本、富士盛、菊池、亀田	レポート 復習
2	「特別支援教育」の現状と課題／履修カルテ解説 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	いわゆる「気になる子」と特別支援教育の現状と課題について、理解を深める。 担当：小林	予習 レポート
3	模擬授業（特別活動）	教育実習を踏まえた特別活動模擬授業の実施 担当：関川	模擬授業準備
4	戦後誕生教科としての家庭科と社会科	家庭科と社会科の歴史的共通基盤を知り、その意義を考察する。 確認できた歴史的意義から、今日の社会科・家庭科の在り方について、グループ・ディスカッションを行い、発表する。 担当：山本	レポート
5	円滑なコミュニケーション・連携の方法について 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚） 担当：折笠	レポート 復習
6	円滑なコミュニケーション・連携の方法について 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	円滑なコミュニケーションの方法について学ぶ（対児童生徒、対保護者、対同僚） 担当：折笠	レポート 復習
7	教師の教養としての英語表現力 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	英語での自己紹介力を高める。 担当：ホーナー、山本	レポート 復習

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
8	「チーム学校」の現状 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	郡山市教育委員会より、教育現場の経験豊かな教育行政官を招き、「チーム学校」に関する基本的な考え方と、食育を含む郡山市の現状について解説して頂く。 担当：ゲストスピーカー 郡山市教育委員会学校管理課 山本	レポート 120
9	自己の専門性を他の専門職者へ伝える① 作戦会議と教材作成	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。 担当：難波、山本	調査研究 プレゼンテーション準備 120
10	自己の専門性を他の専門職者へ伝える② 作戦会議と教材作成	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。 担当：難波、山本	調査研究 プレゼンテーション準備 120
11	自己の専門性を他の専門職者へ伝える③ 作戦会議と教材作成	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションの準備を行う。 担当：難波、山本	調査研究 プレゼンテーション準備 120
12	自己の専門性を他の専門職者へ伝える④ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	栄養教諭に向けて、中高普通免許状家庭科一種の専門性を伝える工夫を考え、プレゼンテーションを行う。 担当：山本、菊池、難波、亀田	レポート 120
13	学校教育における芸術科教育 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	学校教育における芸術科教育の意義に触れるとともに、芸術科教員から家庭科教諭や栄養教諭に臨むことを理解する。 担当：磯部、黒沼	レポート 120
14	教育問題の理解と対応 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	学校において生起する諸々の教育問題について、教師としての自己の対応について考察を深める。 担当：関川	レポート 120
15	まとめ 〔「教職実践演習（栄養教諭）」と合同〕	授業の総括を行う。 当初の目標と現在の課題を確認し、自己評価と反省を行い、レポートを提出し履修カルテを完成させる。 担当：山本、富士盛、菊池、亀田	レポート 120

<b>科目名</b>	教職キャリアデザインⅠ	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 3年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 3年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 3年 2単位 選択	
<b>担当教員</b>	山本 裕詞			
<b>開講期</b>	後期			
<b>授業概要</b>	教職キャリアデザインⅠは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、教職に就くために何をどう努力したらよいか、その具体的な方途を得ることを目標としている。講義の内容は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討論等から成る。また、12月に模擬試験（教職教養）の受験体験を組み入れ、教員としてのキャリア形成の一助となるようにはかっている。本科目の受講を手がかりにして教職へのキャリアを築くことができるよう、積極的に勉学に励むことを期待する。			
<b>達成目標</b>	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。			
<b>受講資格</b>	原則として、本学教職課程履修者の内、大学3年生、卒業生を対象とする。	<b>成績評価 方法</b>	平常点による「認」評価	
<b>教科書</b>	特に指定はない。毎回、各担当教員が資料等を配布する。			
<b>参考書</b>	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』			
<b>学生への要望</b>	採用試験は、各都道府県によってさまざまであるため、各自の自主的な勉学が必要である。本科目の受講が勉学の指針となるように、授業への積極的な参加を望む。 常に受け身の姿勢ではなく、主体的、積極的な姿勢で授業に望んでほしい。			
<b>オフィスタイム</b>	山本：月曜Ⅱ・Ⅲ限、関川：火曜Ⅱ限、水曜Ⅳ限、菊池：月曜Ⅲ限、火曜Ⅴ限、難波：水曜Ⅳ限、金曜Ⅲ限 亀田： 各教員の研究室			

## -授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	授業内容	
1	オリエンテーション	授業内容、自学の仕方、教員採用試験に関する説明を聞く。志望都道府県調査表を記入する。 担当：山本	復習	90
2	教育原理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本	復習	90
3	教育法規	過去問を解くことを通して、出題の傾向を知る。 担当：山本	復習	90
4	教科別指導①	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、亀田	復習	90
5	教科別指導②	各専門教科について、基礎的な知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、亀田	復習	90
6	教科別指導③	各専門教科について、基礎的な知識の理解を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、亀田	復習	90
7	特別支援教育	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本	復習	90
8	教育心理	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本	復習	90
9	教育時事	過去問を解くことを通して、出題傾向を知る。 担当：山本	復習	90
10	模擬試験	模擬試験の受験体験をする。 担当：山本	復習	90
11	模試フォローアップ	模擬試験を振り返るとともに、克服すべき点を確認する。 担当：山本	復習	90
12	小論文	論理的に文章をまとめ上げる基本を知り、添削を受ける。 担当：山本	復習	90
13	個人面接	教職をなぜ目指すのか。面談の体験を通して教職への意識を高める。 担当：山本	復習	90
14	集団討論	グループで結論を導き出す体験を通して、討議とは何かを知る。 担当：山本	復習	90
15	採用試験の申込について	授業のまとめ 採用試験の手続き、提出書類について知る。 担当：山本	復習	90

平成31年度

<b>科目名</b>	教職キャリアデザインⅡ		
<b>担当教員</b>	山本 裕詞, 関川 悦雄, 小林 徹, 難波 めぐみ, 菊池 節子, 折笠 国康, 亀田 明美, 富士盛 公年	<b>対象 単位数 必選</b>	家政学部 人間生活学科生活総合コース 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科建築デザインコース 4年 2単位 選択/家政学部 食物栄養学科 4年 2単位 選択/家政学部 人間生活学科福祉コース 4年 2単位 選択
<b>開講期</b>	前期		
<b>授業概要</b>	教職キャリアデザインⅡは、建学の精神に則り、教員としてのキャリア形成を目指す学生を対象にした科目である。本科目は、実践的な力をつけることをねらいとしている。 講義は、教職教養関連の科目、専門科目、小論文、集団討議等から成る。 また、授業だけではなく、業者が行う模擬試験（教職教養）の受験をとおして、自己の実力を知り、結果を踏まえてキャリア形成の一助となるよう支援する。本科目の受講をとおして、これまでの勉学がより一層促進されることを目指す。		
<b>達成目標</b>	①教員としてのキャリア形成を構築することができたか。 ②教員採用選考に向けて自己の実力を認識することができたか。		
<b>受講資格</b>	原則として、本学教職課程履修者の内、大学4年生、卒業生を対象とする。	<b>成績評価 方法</b>	平常点により「認」評価。
<b>教科書</b>	特に指定はしない。毎回、担当教員が適宜資料を配付する。		
<b>参考書</b>	『教育小六法』（最新版） 志望校種の『学習指導要領』		
<b>学生への要望</b>	本科目の受講をとおして各自の勉学の指針となるよう積極的に受講されることを希む。		
<b>オフィスタイト</b>	山本：月曜Ⅱ限（10:30～12:00）、月曜Ⅲ限（12:50～14:20） 関川： 難波： 菊池： 亀田： 富士盛： 折笠： 場所：それぞれの教員の研究室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
1	オリエンテーション 4/11	授業内容の説明を聴く。教員採用の現状を知り、個別相談を受ける。 教職教養に関する出題想定問題を解き、自己の現状を知る。 担当：山本	90
2	面接と討論（入門編）4/17	採用試験対策としての面接、討論の在り方の基礎を学ぶ。 個人面接、集団面接、討論について体験的に学ぶ。 担当：山本	90
3	小論文（入門編）4/24	「小論文のポイント」を踏まえ、与えられたテーマをもとに、小論文を書いてみる。 担当：山本	90
4	教科別指導① 5/9	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について幅広い知識を身につける。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、亀田	90
5	教科別指導③ 5/15	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について知識を深める。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、亀田	90
6	教科別指導③ 5/22	各専門教科において、現在、教育現場でなされている実践やカリキュラム等について、これまで得た知識の理解をさらに深め、実力の向上を図る。 担当：（家庭）難波、（栄養）菊池、亀田	90
7	小論文（応用編）5/29	前時に書いた小論文に関し、評価を受ける。 自己の教育に対する考えを、論理的にまとめる練習をする。 担当：関川	90
8	特別支援教育 6/6	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：山本	90



-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容	
9	教育原理 6/12	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。主として、教育思想、教育史。 担当：関川	復習 90
10	教育法規 6/19	過去問を解くことをとおして、知識の理解を深め、実力の向上を図る。 担当：山本	復習 90
11	場面指導（入門編）6/26	採用試験における場面指導の在り方を知り、自己の指導観を批判的に確認する。 その際、個々の指導観の発表をもとに、全体で討議する。 担当：山本	復習 90
12	場面指導（応用編）7/4	既に学んだ場面指導に関する基礎的理解をもとに、採用試験を想定した場面指導について、体験的な学び（場面指導の相互評価）を通して、さらに理解を深め、具体的に対応できる力を身につける。 担当：山本	復習 90
13	教育時事 7/10	現在、教育現場で話題となっていることを知り、文部科学省の方針の理解を深める。 担当：山本	復習 90
14	個人面接 7/17	自己をPRする力をつけるとともに、採用試験に対応できる面接スキルが身につけていることを確認し、教職への意識をさらに高める。 担当：折笠、亀田、富士盛	復習 90
15	集団面接 7/24	グループで教育に関する課題について、ある結論を導き出す体験をとおして、他者と討議する力を高める。 担当：折笠、亀田、富士盛	復習 90